

鈴木有郷牧師説教

4/24/2011(イースター)

彼らの目は開かれた ルカ24:28-45

私たちの世界は暗闇に満ちています。いたいけな幼子が母親のボーイフレンドによって打ち据えられて死亡する世界です。教会キャンプに行く子供達を乗せたバスが転覆し、全員が亡くなる世界です。若い親が原因不明の病気にかかり、子供達を残して死んでゆく世界です。戦争で何の罪もない市民が殺害され、自然の災害で何千、何万という数の人々が命を失い、家屋や畑を失って途方に暮れる世界です。

私たちの世界は暗闇に満ちています。

主イエスの弟子達ほどこの世の暗闇を身を以て体験した人は少ないでしょう。彼らは、主イエスと共に文字通り寝食を共にし、3年の月日を過ごしました。当時の平均寿命が40才程であったことを考えると、3年という年月は、馬鹿にならないものでした。

その彼らの先生が十字架にかかり刑死してしまったのです。その最後の場面は余りにも惨く、それを直視できる弟子達は一人もいませんでした。十字架の上で苦しみ、もがくイエスは、ローマの兵士から嘲笑され、宗教指導者達からなじられ、群衆から唾されたのです。

弟子達の絶望とおじ惑いぶりが目に浮かびます。彼らは希望を失い、どのように生きていったらいいか皆目見当もつかなくなっていたのです。

しかしその三日後の日曜日に、弟子達は想像もつかない衝撃的な出来事に出会ったのです。主イエスが甦り、数人の女性達や弟子達の前に現れたのです。埋葬された墓に遺体はなかったという話まで伝わってきました。

この主イエスの復活の出来事は、ビデオテープに撮ることのできる類いのものだったのでしょうか。そう考える人もいます。或は、それは象徴的な表現であって、文字通り受け取る必要はないものでしょうか。そう考える人もいます。どちらの立場に賛成しても、それ自体は大きな問題ではありません。

重要なのは、主イエスの復活の出来事の意味は何かということです。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書は、共通して、主イエスが、十字架にかかる前と異なる形で彼らと共におられるという衝撃的な体験をしたという点を強調しています。

私たちの命は死で終わるのではない。残虐、憎悪、苦しみ、絶望で終わるのではない。暗闇は太陽のような明るさに変えられ、死は克服される。神の永遠の命において必ずそうなる。これが主イエスの復活の主張です。神の永遠の命において逆転し、喜びが悲しみに取って代わり、絶望が希望へと変革される、と言うのです。

ですから、大人の暴力によって命を断たれた幼子は、神の永遠の命の中へと抱き入れられるのです。全く理不尽に虐殺された市民は、これまた神の永遠の命の中へと抱え込まれるのです。不治の病にかかり、家族を残してこの世を去った若い親は、神の永遠の命のなかに抱え込まれているのです。地震や津波で命を失い、行方さえ知れない人々は、神の永遠の命の中で喜び、踊っているのです。ですから、この世を無駄に生きた人は一人もいないのです。

これが主イエスの復活において弟子達に与えられた、石をも砕く強い確信です。あの弱虫だった弟子達を福音に文字通り命をかけるキリスト者へと大変革した復活の信仰だったのです。いかなるこの世の権力も、死さえもこの主イエスを打ち破ることはできない、そう彼らは確信したが故に立ち上がったのです。復活なくしてキリスト教の信仰があり得ない理由がここにあります。

さて、私たちはどこで復活のイエスと出会うのでしょうか。今日の聖書の箇所エマオへの道のエピソードが、ヒントを与えてくれます。

二人の弟子がエルサレムからエマオの村へと歩いています。二人は先生のイエスが十字架にかかって死んでしまったというので絶望の底にいます。そこに一人の旅人が現れます。復活のイエスです。しかし、二人はそれとは気づきません。

夕暮れになり、二人は旅人に「私たちと一緒に旅をしませんか。もう暗くなりますから」と呼びかけます。旅人は快く受け入れ、3人は宿を取ります。食事と一緒にします。ルカによる福音書は記しています。「そこで二人の目が開け、イエスと分かった。」

21世紀の現在復活のイエスとどのようにして出会うのでしょうか。それはイエスと一緒に旅をしてくださいと呼びかけることによって可能になります。教会でパンを分かち合い、礼拝することによって可能になります。私たちが隣人に「憐れみの眼差しを送ることによって可能になります。この暗闇に満

ちた世界の中で、和解の器となることによって、可能になります。正義と平和を祈りも止めることによって、可能になります。

復活のイエスは私たちに石をも砕く力強い信仰を与えてくれます。この世のいかなる力も、死さえも、キリスト・イエスにおける神の愛から私たちを引き離すことはできない、という信仰を、です。この確信こそ人生の旅人である私たち一人一人に与えられた岩です。櫓です。希望の源です。